

# 中央大学学員会 藤沢白門会

## 会報

(第28号)



令和6年3月



## 令和5年度 藤沢白門会の活動



3年振りの対面開催となった定期総会で凛々しく挨拶をする片岡会長  
(令和5年4月22日)



九十の齢を越えても矍鑠として好奇心を失わない大先輩  
高島良太郎さんによる乾杯の発声 (令和5年4月22日)

## 令和5年度 藤沢白門会の活動



コロナが5類感染症に指定引き下げとなってから初めて開催された地引網  
父母会、各支部に友好大学の皆様もご参加いただきました（令和5年10月28日）



さあ湘南の海よ！我々は帰ってきた！！  
海を水平線ごと引っこ抜く勢いでいくぞー！！（令和5年10月28日）

## 令和5年度 藤沢白門会の活動



母校のシード入りに影がさす中、一人気を吐き復路7区を激走して  
区間賞をもぎ取った吉居駿恭選手（令和6年1月3日）



8区藤沢を駆け抜けたランナーを見送り花鳥風月へ  
母校がじりじりと順位を落としていく展開に固唾をのんで見守る（令和6年1月3日）

## 令和5年度 藤沢白門会の活動



第1回藤沢白門寄席開催のセレモニーとして、社会福祉活動の一環である藤沢市への車椅子の寄贈が行われる（左：片岡会長 右：鈴木恒夫市長）（令和6年2月23日）



（左から春風亭三朝師匠、桂やまと師匠、林家つる子さん、三遊亭好青年さん）  
落語の披露を終えて4人の噺家さんから締めのご挨拶（令和6年2月23日）

## 令和5年度 藤沢白門会の活動



打ち上げで嘶家さんと集合写真の撮影会  
無事に寄席をやりきった達成感に皆さんの顔も喜びひとしお（令和6年2月23日）



第1回藤沢白門寄席に打ち上げも大成功裏に終わり、皆さんで記念撮影  
お越しくださり有難うございました。第2回でお会いしましょう！（令和6年2月23日）

# コロナ禍を越え 30周年の準備を

藤沢白門会  
会長 片岡 久興



昨年5月に新型コロナが感染症法上5類となり、これで元の生活に戻れるだろうということで総会に於いて新年度の行事計画も決まり新たな気持ちでスタートしました。

この1年間振り返ってみますと、全体としては殆どの行事はほぼ予定通り実施できましたが、行事への参加者がコロナ前より少なくまだ完全にコロナをクリアできたとは言えませんでした。

この3年間コロナ禍による会員の減少が影響したことであり、やむを得なかったのではと思っております。

主な行事については7月に相模原白門会の創立10周年と県内合同白門会が同会の幹事により開催されました。その中でサプライズゲストとして歌手のAさんが千の風に乗って登場し大いに盛り上がりました。同じく同月には県央地域初の「厚木白門会」支部の設立総会が開催されました。県内では10番目の白門会となりました。

10月には若手会主催の地引網大会が例年の通り堀川網により開催され、参加者が若干少なかったのですが天候にも恵まれしらすの大漁でにぎわいました。

年が明け100回記念大会の箱根駅伝に於いて優勝候補の一角に挙げられておりましたが、我々の応援の甲斐もなく選手の体調不良により全く良いところもなく総合13位という惨敗の結果となってしまいました。

どんなスポーツでも「心・技・体」がそろわなければ勝利はありません。特に「健康管理」一番大事だと思います。来年は唯一の区間賞を取った吉居駿恭君を中心に優勝を目指して頑張ると願うばかりです。

そして2月の「藤沢白門寄席」です。この事業は初めてであり各委員会・サークル単独ではなく皆で進めることとし、昨春まず日程と出演者が決まり準備作業に入りました。最初に落語会の経験をお持ちの学習院さんにご指導・アドバイスをいただき、チケットの販売、宣伝、行政へのお願い等々進めていき担当者の頑張りでも無事開催することができました。

23日は真冬並みの寒さと冷たい雨という悪天候にも拘らず大勢のお客様に来ていただきました。始める前に来賓としてお招きした鈴木藤沢市長に平成12年度から続けている車椅子(今回2台で合計41台)の贈呈式とお礼のご挨拶をいただきました。

出演者の桂やまとさん、春風亭三朝さん、林家つる子さん(三月に真打昇進)、スウェーデン人の三遊亭好青年さんの4人が素晴らしい熱演で、大いに盛り上がりました。そのあと4人が出してくれた名入り手ぬぐいと色紙の抽選会を行い皆様に大いに喜んでいただけたと思っております。

お開き後に能登半島地震で多大な被害にあわれた方々への義援金を皆様をお願いをしたところ、ご協力をいただき有難うございました。厚くお礼申し上げます。

その後の中大関係者による懇親会では親睦・交流を図り懇親を深めることができました。

総括として課題であった会員増は手広く募集をかけましたが数名の入会、サークル活動も会員相互の親睦交流には十分とは言えない結果でした。

一方、大学では昨春に茗荷谷キャンパス(法学部)、駿河台キャンパス(ロースクール、ビジネススクール、学生会本部等)が供用開始されました。

12月にサークル活動の一環として両キャンパス他を見学してきました。大変立派で素晴らしい設備で最高の勉強環境となっており、業績の向上が大いに期待できると思います。また、駿河台の19階にあるレストランの眺望は素晴らしく何回でも行きたくなりました。

さて、来年12月は藤沢白門会が創立30年となります。今年はその準備をしていく年でもあります。その為に懸案の会員の増、サークルの活性化を図ることが重要です。今年の干支は「天に昇る辰」だそうです。皆で当会を力強く発展させていかなければならないと考えております。私も精一杯努力致しますので皆様のご理解とご協力を是非お願いいたします。

# 特報『第1回 藤沢白門寄席』

## 大盛況の中開催される

令和6年2月23日（祝）午後1時30分より藤沢市民会館第1展示ホールにおいて、「第1回 藤沢白門寄席」が開催されました。

当日はあいにくの雨天で気温も一桁にとどまる寒さの中、既に1月末には完売していたチケットをお買い上げになったお客様にご来場いただけるのか不安がよぎりましたが、蓋を開けてみれば大盛況。白門会各支部の皆様や一般の方々に至るまで、沢山のお客様にお越しいただきました。

最初に、今回総合司会を務めていただいたフリーアナウンサーの宮川浩子さんによる開会のお知らせから、片岡久興会長の挨拶としてご来場のお客様への御礼に続いて、例年では新春のつどいで催している藤沢市への車椅子寄贈が社会福祉活動委員会の一環として執り行われました。来賓としてお越しいただいた2月18日（日）の藤沢市長選挙において四期目の当選を果たした鈴木恒夫市長へ、片岡会長から目録とともに2台の車椅子が寄贈され、鈴木市長から平成12年度より通算で41台になった車椅子への感謝のお言葉を添えたご挨拶をいただきました。

そして次に本日ご出演の四人の噺家さんが登壇し、自己紹介を交えた挨拶をいただいたあと、いよいよお楽しみの落語の噺が始まりました。

ご来場のお客様への挨拶に続いて  
車椅子を寄贈する片岡会長



車椅子寄贈の目録を手に  
感謝の言葉と挨拶を述べられる鈴木市長

### 三遊亭好青年「時そば」

まず高座へ上がったのは三遊亭好青年さん。笑点でも有名な三遊亭好楽師匠のお弟子さんで現在は二ツ目。スウェーデンはウプサラという都市のご出身で、平成24年に交換留学生で中央大学に在籍して落語研究会に入会したという異色の経歴をお持ちの方です。

ですが日本語も大変堪能で、母国へ帰郷された際にはスウェーデン語に翻訳した落語を披露したこともあるそうです。また日本語を書く方も達筆で、会場でも即興で本日の演目を見事な筆運びで書き上げてくれておりました。

選んだ噺は、落語をまだよく知らないという方でも一度は耳にしかことがある「時そば」でした。まくら（本題に入る前の小話）では流石と言うべきか英語で簡単な噺も交えてお客さんを引き込んでいき、また本題に入ったあとは何故か江戸古典落語の時代に海外の料理の名前が出てくるなど、好青年さんならではの噺の運びに聞き入るお客さんの笑いを誘っていました。

最後に落ちがついて水を打ったような会場に盛大な拍手が沸き起こり、あとに続く噺家さんたちへの期待も大いに膨らませていただきました。



### 春風亭三朝「片棒」



次は中トリを飾る真打の春風亭三朝師匠。とても張りがあってよく響き渡る声をお持ちで、今回来てくださった噺家さんの中でも一番笑顔を見せてくれる表情の豊かな方でした。

そんな師匠が高座に上がって始めたまくらが「しわい屋」。ケチの度を越した節約術が笑いを誘う色々な小噺が詰まった演目から一節を取り出した噺を披露してくれました。それぞれが短編集のような構成になっているので、一つひとつが分かりやすく、気持ちの良い師匠の声でお客さんの耳を引き寄せるにはうってつけのまくらでした。

軽く笑って本題の「片棒」。これもケチん坊の噺で、ケチを貫き一代で身代を築いた父親が三人の子の内跡継ぎを決めようと、三者三様のお金の使い方を問答しあうというものなのですが、長男次男の金の使い方がよくぞここまで出るかというこの上ない派手な散財ぶりで笑いを誘います。呆れ果てた父親が二人を怒鳴りつけて三男坊を呼ぶと急転直下、極めてケチん坊で兄二人とは真逆の両極端な結果になり、そのギャップでも笑いが巻き起こる、師匠の話術も相まってさながらジェットコースターに乗っているような起伏に富んだ噺を大いに楽しみ、笑い疲れた体をほぐす中休みの「お仲入り」に入りました。

## 林家つる子「お菊の皿」

お仲入りを挟みまして後半は林家つる子さんから。現在は二ツ目で九代目林家正蔵師匠に入門されておいでです。正蔵師匠については襲名前前の林家こぶ平の名前で覚えておいでの方も多いかと思えます。

まくらでは、ご自身の群馬県の生い立ちと中央大学のキャンパスライフの様子を対比させた、入学当初森と山ばかりの群馬県から東京都という都会へ引っ越す不安感を感じていたものの、八王子キャンパスも森と山ばかりだったのでホームシックにならなかった。という自分をネタにした噺で客席の笑いを誘い、令和6年3月21日をもって真打昇進のご挨拶を述べられ、明るく温かい会場からの拍手に祝福されておりました。

本題に入って「お菊の皿」、これも有名な怪談「番町皿屋敷」がモチーフになっています。殆んどの方が「いちま〜い…、にま〜い…」とおどろおどろしく語られる恐ろしさを思い浮かべるはずなのですが、噺が盛り上がってくると主役のお菊のしたたかさをつる子さんが見事に演じきり、会場を笑いの渦に巻き込んでいきます。

つる子さんが大得意にしている噺を真打昇進目前の今に楽しめたことは、とても貴重な思い出として多くのお客さんの記憶に残ったことでしょう。



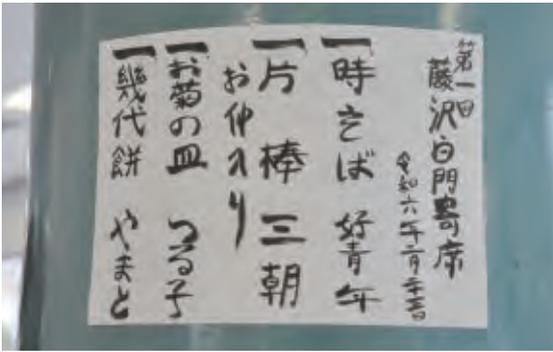
## 桂やまと「幾代餅」



大トリを飾ってくれたのは桂やまと師匠。我が中央大学落語研究会で初の真打となられた噺家さんです。今回の四人の最年長ということもあり落ち着いた高座姿で、人情噺の細やかな人物描写を得意とする実力を物語る立ち居振る舞いでした。そのやまと師匠は藤沢白門会主催の寄席ということもあり、まくらでは学生時代の経験を語っていただきました。

かつて中大落研ではプロを決して出さないのが掟だったのが、やまと師匠がプロに弟子入りすると決めたと知られた時には猛反対を受け、心無い声もあがったそうです。しかしいざプロになって高座に上がるようになると、反対していた全員が応援する側に回ってくれたとのこと。中央大学の絆の深さを垣間見る心温まる逸話でした。

本題の「幾代餅」も多くの人々の心を掴んできた人情噺。遊郭の太夫に身分違いの恋をした男が、周囲の手助けもあり、また太夫の善良な心持ちとも惹かれ合い、所帯を持ち餅屋を開きこれが『幾代餅』として江戸中の評判になったという「めでたしめでたし」で終わる噺でした。円熟味を感じさせる流石の一席で、大トリに相応しく寒空の下お越しいただいたお客さんも笑いと感動で体も心も温まる噺で締めくくりました。



好青年さん直筆の演目表

四人のそれぞれに魅力たっぷりの個性を発揮した噺を十分に堪能したあとは、噺家さん直筆の色紙やオリジナルの手ぬぐいの豪華景品を賭けた抽選会に入りました。チケットの半券に割り振られた抽選番号が読み上げられる毎に客席から元気な挙手が起こり、噺家さんからのお手渡しによる景品に喜びもひとしおといった様子が見られました。

また、開場とお開きの際には激甚災害に指定される程の大きな被害に見舞われた能登半島地震への募金が寄せられ、沢山の温かいご支援を賜ることが出来ました。この場を借りて感謝申し上げます。



噺家さん各者各様、笑顔でお客様をお見送り

そしてあっという間に過ぎ去ってしまった寄席の余韻に後ろ髪を引かれながらも、四人の噺家さんのお見送りを受け、藤沢まで駆け

つけてくれた愛好家の方と言葉を交わしたり、御祝儀を受け取ったりとお客様との微笑ましい交流の景色も見られ、「第1回 藤沢白門寄席」大盛会をもってお開きとなりました。

さて寄席も終わり市民会館三階の「まつの間」へと会場を移動し懇親会へ。各支部の方々や中央大学出身の講談師である一龍齋貞奈さんご夫妻をはじめ 50名を超える皆様にご参加いただきました。

本間副会長の司会で開会となり、改めて片岡会長が「第1回 藤沢白門寄席」の成功と感謝の挨拶を述べられ、乾杯となりました。



今日のために駆けつけてくれた一龍齋貞奈さん（中央）  
小田原横浜白門会会長（左）松木川崎白門会会長（右）



第1回藤沢白門寄席の成功と  
皆様の益々の発展を祝して乾杯！！

ひとしきり噺家さんの芸の見事さを褒め称える言葉や、各支部の皆様の交流を重ねる姿がそこかしこに交わされたあと、私服姿に着替えた四人から改めてご挨拶をいただき、御祝儀の差し入れがされ、改めて四人を交えて話は弾み、皆さんが満足げな表情を常に湛えてくださっていました。

宴もたけなわとなり、一龍齋貞奈さんと彼女に関わりの深い川崎白門会の皆様よりご挨拶を賜り、続いて横浜白門会会長の小田原真人様、長野県中信支部支部長の小林治雄様よりご挨拶の言葉を賜りました。



小田原真人横浜白門会会長に続いて、小林治雄長野県中信支部支部長からのご挨拶

懇親会の最後になって、参加者全員で写真室に移動し記念撮影を行い、まつの間で四人の今後の益々の活躍を祝福しエールを贈って散会となりました。

大いに盛り上がり成功裏に収めることが出来た藤沢白門寄席。第2回の開催も既に決定し令和7年2月24日（月・祝）を予定しております。会員の皆様にもまたふるってご参集くださいますようお願い申し上げます。それまでの皆様のご健康と再会を祈念し、ここに筆をおかせていただきます。どうも有難うございました。

（伝統芸能鑑賞サークル幹事 中央大学落語研究会 OB 深澤宗一）

---

---

# 会員随想

---

---

(掲載順不同)



令和5年6月25日 江ノ島で開催された神奈川セーリング祭りにて  
(撮影：昭和39年法学部卒 大木樹雄)

# 惜 別 の 歌

昭和 35 年法学部卒 大森靖朗

私が初めて「惜別の歌」を聴いたのは昭和 31 年秋、入学した年の学園祭における音楽研究会によるオーケストラ演奏であった。哀調を帯びた抒情たっぷりの美しい曲の流れにえらく感銘を受けたことを覚えている。

その歌詞の中の「きみがさやけき めのいろも」「きみくれないの くちびるも」「きみがみどりのくろかみも」「またいつみん このわかれ」等々は清らかな瞳をした黒髪の美しい清楚な乙女との切ない別れを彷彿させ、われわれの青春のロマンをかきたてるには十分であった。そして誰からともなく、これは姪と不義の関係を結んだ叔父がその関係を断つ切なく悲しい別れの歌である・・・と。その根拠となるのが島崎藤村の自伝的告白小説、「新生」に赤裸々に描写されている、と。

しかし、「惜別の歌」はそんな男女のロマンチズムに浸る甘いものではなく、太平洋戦争末期に学徒勤労動員で陸軍兵器工場で働いていたわれわれの先輩、藤江英輔さんが、動員されていた学友たちと日本の暗い運命と召集令状におびえる日々を送っていた頃、学友のひとりから一編の詩を書いたメモを見せられ、詩がいずれは召集令状が来るであろう友との別れと重なり、藤江さんには一挙に曲のメロデーが浮かびあがったという。歌はいつしか戦地に向かう学友を送る際の歌となり、戦後はこれが中央大学の学生歌につながって行った、というのが「惜別の歌」の由来だということを後年になって知った。

詩は、明治 30 年に発表された島崎藤村の詩集「若菜集」の中の「高樓」であり、小説「新生」は大正 8 年に発表されているので、姪との別れ云々とは関係のないことなのに、私は後年、「惜別の歌」誕生の経緯を知るまで不義の関係を断つ叔父と姪の別れの歌と思っていた。

「高樓」は、嫁ぐ姉と送る妹との別れを惜しむ姉妹の心情を連歌形式で詠んだもので、叔父と姪との別れ云々とは全く関係のないことであつたのである。

六十数年前、詩の本来の背景を知らないまま、美しい乙女との別れを詩に重ね、親しい級友たちと百匁(375g)のグリーンピースを新聞紙に広げ、トリスの丸瓶を酌み交わしながら「惜別の歌」を熱唱していた情景が今も鮮明に蘇るのである。

## 「余 聞」

### 島 崎 藤 村 「新 生」

「新生」は島崎藤村の自伝的告白小説でそこに描写されているのは叔父と姪とのいわば近親相姦であり、当時、倫理的非難もあり文学作品としての評価もそれほど高いものではなく、特にこの作品についての芥川龍之介の評価は厳しかったとされている。

発表されたのは大正 7 年頃のことであり、惜別の歌の原点となった「高樓」が収録されている「若菜集」が発表された時(明治 30 年)からは 20 年以上も経っている。「高樓」の詞について筆者が誤解していた、不義の関係を結んだ叔父と姪との関係を断つため云々という話とは全く何の関係もないことなのである。

私が級友らと「惜別の歌」を歌っていた頃の受け止め方は、藤村が兄（次兄）の娘と不義の関係を結んだことに兄が激怒し、世間体もあることなどから表向きは遊学ということにしてフランスに送り出し、数年後に藤村が帰国した時、こま子は他の人のもとに嫁ぐ身となっていた。その切ない別れの気持ちを歌ったものだ、ということであった。

小説「新生」によれば、岸本（藤村）と節子（こま子）との関係に関する記述はあらまし以下のようである。

藤村には妻、園子との間に七人の子どもがいた。園子が七人目の子を出産した後、その後の経過が悪く園子は死亡した。その後まもなく子供たちも次々と死亡し、自分の手元に残ったのは女の子二人と男の子二人であった。藤村は男の子二人をそばに置き、女の子は縁者に預けた。

女手が無くなった藤村のもとには、手のかかる子供の世話や藤村の身の回りの世話などのために藤村の次兄の娘、ひさ（照子）とこま子（節子）が同居することとなった。そのうち姉のひさは嫁ぎ、その後はこま子が藤村の家族の世話をすることとなったが、二人の子供はこま子を母親のように慕い、こま子もまた子供たちには母親のように接し、藤村もこれに満足していた。

そのような状況のもと、極めて自然な形で叔父と姪との関係が男と女のものへと変わって、こま子は藤村の子を宿すことになるのであるが（子は関東大震災で死亡?）、その辺りのことは「新生」には詳しくは触れていない。

藤村は姪との過ちを犯した自責の念と、それをこま子の父である兄や関係する人たちへ告白しなければならぬ気持ちとそれができない苦悩に苛み、当時著名な作家であった藤村の友人からのかねてからの勧めもあって、フランスへの遊学の時期を早め、こま子に対しては申し訳ない気持ちを残しつつ渡仏を決意、結果的には現実からの逃避ということになるのであるが、こま子はこれを受け入れ切れない思いで送り出す。出立に際してこま子は藤村が出立する新橋駅まで見送りには行かず、ひっそりと藤村の高輪の家で品川辺りを通過する汽車の汽笛を聞きながら、心の中で別れを告げたそうである。

数年後、藤村は帰国するが、また関係が再燃して従前の生活に戻り、こま子は藤村の身の周りの世話をし藤村の執筆活動に対しても何くれとなくフォローをした。その後、こま子は無産運動家で河上肇の門下生、長谷川博という人のもとに嫁いで昭和五十四年に八十五歳で没している。

（参考文献：岩波文庫「新生」島崎藤村作）



---

---

# ある戦争映画に思った事

平成 17 年法学部卒 相原妙美

先日、中学 1 年生の娘に勧められ、『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』という映画を観てきました。ご覧になった方もいらっしゃるでしょうか？

映画の宣伝程度で内容をお話致しますと、主人公である現代の女子高校生、百合が、1945 年の日本にタイムスリップし、そこで出会った特攻隊員の彰と恋をするという物語です。

娘はこの映画の原作小説を読んでおり、映画化されてすぐ、友達と観に行きました。小説を読み話は知っていても、想像以上に心打たれ、娘の中では今までで一番泣いた映画になったそうです。娘の後ろの席に座っていた人などは、声を出して泣いていて、さすがにびっくりしたなんて事も話していました。

私はそんな娘の話聞いて興味がわき、空いた時間に一人で映画館に足を運んだのです。

娘が映画館に行った際は、娘から見ると年齢の高い人（娘曰く大人）が多かったと聞きましたが、私が行った日は若い学生さんがほとんど。私は、戦争もテーマになっている映画を、多くの若者が観に来ているという事に少し驚きました。そして映画は確かに、涙なくしては観られないものでした。

なにせ主人公の恋した相手は特攻隊員です。どんな結末になるか、大方予想はついておりましたが、それにしても泣けます。号泣でした。娘を驚かせた様な声をあげて泣く人にはなるまいと耐えていなければ、うっかり声が漏れていたかもしれません。それくらい涙する内容でした。

ただ、実は映画を観ている際に、ひっかかった表現もあるのです。当時の軍人であったらこういう言葉は選ばないだろうと思える台詞があったり、主人公の言動も、いくら戦争をあまり知らなかったとしても、あまりにも軽はずみだと思えてしまったり。何よりも全てがとても綺麗だった事、そこに私は多少の違和感も覚えました。しかし同時にそれが良いのだろうとも思いました。

たとえば我が家では、娘に私がかつて見た戦争もテーマになっている映画を見せようとしても嫌がられてしまいます。戦争の悲惨さを少しでも知る為に見て欲しくても、結局若い子が全く見たくならないような作品では、良い作品ならば尚更、もったいないと思うのです。

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』の作者は汐見夏衛さんです。汐見さんは、鹿児島県出身で、小中学生の時に社会科見学で訪れた知覧特攻平和会館で特攻隊員のことを知って衝撃を受けたそうです。後に汐見さんが高校の教員になった際、高校生が戦争や特攻隊のことを知らないという現実と直面し、自分がかつて受けた衝撃を伝えるために書いた小説、それが『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』なのだとか。主人公が現代の女の子で、その子の目線で、その子の言葉で、戦争の“間違っているところ”を紡いでいく。

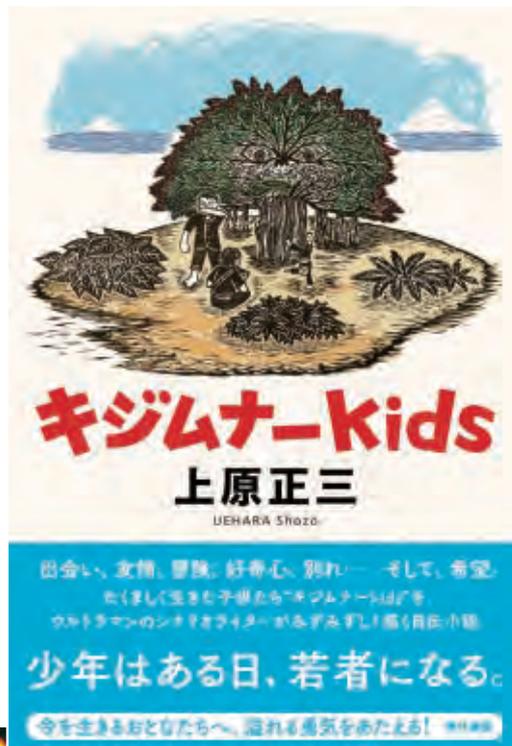
それは今の若い子にも受け止めやすいメッセージになっているなど感じました。

映画館を出る際、中学生、高校生ぐらの子達がわいわいと今しがた観た映画の話をしている姿をこちらこちらで見受けました。若い方々の心に響き、戦争というものを考えるきっかけになっているのであれば、素晴らしい事だと思います。

さて、どうして私はこの映画でそんな事を考えたかと申しますと、実は2022年、沖縄返還50周年を機に、私の勤める出版社で、戦争の漫画を出しました。上原正三さんの『キジムナー kids』（現代書館）という小説を、横山旬さんに漫画化してもらったのがその作品。

『まんが キジムナー kids（上下巻）』（現代書館）です。普段は経理の仕事をしている私が、この漫画の出版に関しては、編集の仕事にも携わったのですが…これがもう～さっぱり売れず、大苦戦したのが記憶に新しいのです。

今回の映画を観ながら、営業的な問題もあったと思いますが、編集の段階で、もっと若い子達にも受け入れやすくなる工夫が何か出来たかもしれないなど考えた次第です。まあ、そんな漫画版は苦戦している作品ではありますが、『キジムナー kids』は、戦中戦後を生きた沖縄の子供たちを描いた作品です。素晴らしい作品ですので、興味を持たれた方は是非読んでみてください。



---

---

# 「育休を取りました」

平成 20 年理工学部卒／平成 22 年理工学研究科修了 早乙女彰洋

2022 年に子供が生まれ、そのさいに育児休業を取得しました。政府が 2025 年までに男性の取得率を 50% までに上げる目標を掲げる昨今、男性が育休を取得することが珍しくない世の中になってきたと思います。データとしても 2022 年度の男性の取得率は約 17% だとのこと（注 1）。そのため意図したつもりはありませんが、政府の目標に非常に小さい数字ですが貢献できたようです。ちなみに私が育休取得前に会社に聞いたら、事業所（従業員数約 900 人）で男性社員の育休取得者は 3 人だったそうです。社員の年齢分布が 50 代に偏っているせいもありますが、社内ではまだまだ珍しいほうでした。ただ、社内の雰囲気として取得がしづらいということはありませんでした。私の上司や先輩が子供の三社面談や行事等があれば会社を休むことがあり、ありがたいことにむしろ取得しやすい雰囲気でした。元々そういったことを気にする性格ではない私ですが、本当に何も気にせず取得が出来たのは幸いでした。

私が育休を取得した期間は 12 週間（84 日間）です。なぜ 12 週間にしたかということ、赤ちゃんの首がすわるのが 3 ヶ月ぐらいというのと、首をすわるまでが大変だと人から聞いたからです。また子供が生まれてから両親の手助けを得られなかったのも理由の一つでした。育休取得前は、赤ちゃんは寝る、お乳またはミルクを飲む、泣く、おしっこやうんちをします、その対応に追われると想像していました。しかし、いざ取得してみると意外と寝ている時間が長く、何かしらの対応をするのも 1、2 時間おきだったので割と時間に余裕がありました。もちろん妻と二人で取得しているためのその余裕があったのかもしれませんが、ただ、最初の 1 か月半ぐらいは、夜中に 1~2 時間おきに泣くため、深夜の対応のために起きるのが非常に辛かったです。育休取得の意義は、きっとこの深夜対応にあったのかもしれないと今でも思います。

対応するのは大変な面もありましたが、やってよかったこともあります。何よりも子供をどう対応したり触れたりしたら良いのかが勉強になりました。もちろん妻からですが。最初、どう抱っこして良いのかさえ全く分かりませんでしたし、少し不安がありました。どうやってミルクをあげていいのか、お風呂に入れるはどうしたらいいのかとか毎日が練習でしたが、今となっては良い思い出です。やはり毎日やるため慣れてきてかつ自信も持てるようになり、今では何も考えずに出来ています。もちろん子供が成長するのでそれに合わせてやり方が少しずつ変わってきています。そのやり方が変わるときによく子供の成長を感じています。これは子供が生まれる前は想像もしていなかったので意外でした。

今まではこれが出来なかったけど、出来るようになったからこれは子供に任せてやめてよとか、やり方を変えてみようとかをしています。そうやって出来ることが目に見えてきて、本当に成長を感じられるので、育休取得をし、やってきて良かったと感じています。

---

---

そのため子供を世話するために、育休だけではなくどうやって仕事を生活のバランスを取るのかというのが大事だと考えさせられています。仕事ばかりでは、このような機会を得られなかったと思います。もう10年以上前の話ですが、その時に配属されていた部署のある先輩は、いつも22、23時まで仕事をしており子供と接する時間が無いと言っていました。そのせいか、人見知りが始まった子供と二人っきりになったとき、子供が自分に対して緊張していたとのことでした。そのため子供に忘れられてしまったのかもしれないと、その先輩が嘆いていました。

今回、この原稿を書きながら改めて思いました。育休の取得を通して、勉強になったのと子供の成長を感じる機会を得られていたのだと思いました。そのため育休を取得して良かったと思っています。

(注1) 厚生労働省「令和5年度男性の育児休業等取得率の公表状況調査」(速報値)

<https://www.mhlw.go.jp/content/001128241.pdf>



育休取得中の私と子供

---

---

# 卒業から 20 年。見つめ直して新たなスタートを

平成 16 年文学部卒 加藤新太郎

この度は藤沢白門会の会報に寄港させていただく機会をいただきまして誠にありがとうございます。2004 年 3 月文学部卒の加藤 新太郎でございます。

卒業してすぐに当会に入会したものの、20 年近くご無沙汰しておりましたので、『はじめまして』という感覚かと感じます。

長いコロナ禍が落ち着き始め、ありがたいことに暇をしていた自分の仕事もコロナ禍前のような忙しさに戻りつつあり、仕事以外のことでも、我慢を強いられていた対面での会合なども出来るように戻りました。大学を卒業してから、特に 20 代は寝食を忘れて働く日々で体力も有り余っていましたが、コロナ禍でのゆったりとした時間の中で年齢を重ねたこと以上に体力が落ちていたことに気付かずに一生懸命に働いていたところ、ついに昨年末にダウンしてしまい、医師から『今日から入院です』となってしまいました。

結果としては、過労による免疫力の大幅な低下が引き起こした通常ではなかなか罹らない病気で思っていたよりも短い期間で退院することができたのですが、入院の宣告を受けた時は、『病名が特定できません。入院中に投薬はするものの、原因や病名が分からないので治す方針が出せないため入院中に検査を行って特定していきます』と告げられ、家族や取引先、友人などには心配を少しでも小さくしようと思い、平静を装いつつも、人生で初めての経験に心が落ち着きませんでした。

私は大学を卒業してからサラリーマンとなりましたが、気が付けば 25 歳で独立してしまい、当時は同い年で独立した仲間は全くいなかったために、文字通り、右も左も分からずに日々手探りの状態だったのですが、同じ業界の先輩経営者から『経営者は常にどんなことが起きたら最悪な状況で、その最悪な状況の時はどう切り抜けていくのかを想像していなさい』と教わっていたため、今でもそれが習慣となっており、入院となった場合にもやはり同様に重い病気なのではないか、とか治るのに時間が掛かるやっかいな病気なのではないかと考えてしまいました。

日頃、忙しくしていると、こういったことはつい忘れてしまうのですが、重大な病気が疑われた時、その結果を待つ間は、今後の人生で出来なくなることを想像し、人生が一変する恐怖が付きまとうということに気付かされました。そして、当たり前のように感じていた近い未来でさえも当たり前ではないことに改めて気付かされました。

突然の入院だったために仕事も事前に調整することが叶わず、かといって周りに迷惑を掛けることも極力したくはなかったので、入院中も朝 5 時くらいまで仕事をして、退院後のことも考えて点滴の針が刺さったままで腕立てや自重での簡単なトレーニングを欠かさないようにしていましたが、今回の入院は、毎日が勝負、毎日を人生最後の日だと思って生きることを再び自分の心に誓うきっかけとなりました。そうすれば、後悔することや落ち込むことも減るのではないかと感じたからです。

また、他にも気付かされました。私の場合は運良く、病名が判明した際に治す方法もすぐに分かり、快方に向かいましたが、世の中では、治る可能性を期待し続けて待っている方々も多くいらっしゃいます。以前から時々、考えてはおりましたが、まだやっていなかったことがありました。それは骨髄バンクへのドナー登録です。ドナー登録は18歳～54歳と限られており、42歳の私は約10年ちょっとしかお役に立てる可能性がありませんが、登録をするきっかけになりました。私とマッチする方が現れるか分かりませんが、骨髄ドナーを待っている方々にとっては、登録者が1人でも増えることは希望の光になることかと思えます。

突然の入院騒動で家族や周りには大きな迷惑を掛けましたが、私にとっては立ち止まって自分を見つめ直す良い機会となりました。久々の藤沢白門会への復帰、生存報告を含めて。



駐日トルコ共和国大使  
コルクット・ギュンゲン氏と





今号は大木樹雄さん、吉原和義さんより写真のご提供をいただきました。誠に有り難うございます。

---

---

# 藤沢白門会の行事活動

---

---



水面の桜に彩られる平等院鳳凰堂  
(撮影：昭和 39 年法学部卒 大木樹雄)

# 第 29 回定期総会開催

～ウイズコロナ新時代へ～

令和 5 年 4 月 22 日（土）藤沢市民会館第 1 展示集会ホールにて第 29 回定期総会を開催しました。対面で行う総会は 3 年ぶりとなりました。例年ですと、総会、懇親会に加えて講演会を開催していましたが、久しぶりとなる今回は、純粹にお互いが元気で再会できたことを祝う集まりにしようというコンセプトのもと、総会と懇親会のみになりました。

13 時から始まった定期総会には 43 名が出席しました。開会に先立ち、前回の定期総会開催後に亡くなられた方々に対して、黙祷をささげました。議案の審議については、久しぶりであったことも手伝って、若干のぎごちなさは否めませんでした。各議案は担当者からの説明後に全体の拍手により賛成多数で無事可決成立し、総会は滞りなく終了しました。



物故者のご冥福を祈り黙祷



議案説明風景

続いていよいよ懇親会です。再会を喜ぶ顔と顔、心と心。やはり顔を合わせ、声を掛け合い、肩をたたき合うことがどんなに絆を強くするかが、皮肉にもコロナウイルスがもたらした災禍によって、改めて実感できた瞬間でした。

14 時に司会の川俣事務局長からの発声により開始し、片岡会長挨拶、最長老の昭和 29 年卒、高島良太郎氏の乾杯、藤沢白門讃歌の斉唱と続き、懇親会に入りました。歓談中、初参加となる杉本和雅さん、石川敏男さんから自己紹介をいただきました。また、折しも時は 4 年に 1 度の藤沢市議会議員選挙投票日前日で、当会会員である現職の永井譲市議員から出席者に対して、支援の輪を広げていただけるよう挨拶がありました。



懇親会開会



一斉に乾杯！



藤沢白門讃歌斉唱



永井議員あいさつ

楽しい時間は短く感じられます。2時間を超える懇親会もあっという間に終了の時刻を迎えました。中大応援団出身の後藤さんが中心となり、坂口さん、土屋さんの演舞により応援歌斉唱、最後に本間副会長の締めあいさつにて終了となり、全員で記念撮影を行い、お開きとなりました。解散後には、会場出口付近で車椅子募金への協力呼びかけが行われ、久しぶりに活躍の場を与えられた募金箱に、多くの参加者から善意の寄付が寄せられました。

(事務局長 川俣 誠)



応援歌斉唱 (左から坂口さん、後藤さん、土屋さん)



本間副会長締めのあいさつ



出席者全員による記念撮影

# 令和5年度中央大学学員会 神奈川県下合同白門会

令和5年7月2日（日）14：00より、橋本駅そばにある「杜のホールはしもと」にて、相模原支部創立10周年記念事業と併せ神奈川県下合同白門会が、盛大に開かれました。県下10支部の白門会が参加するコロナ自粛以降では最大の出席者数となりました。

まず最初に、酒井正三郎中央大学名誉教授（前総長・学長）が、「中央大学一知の二大拠点から新時代の実学教育へ」をテーマとした中央大学を紹介する講演をされました。次に相模原音楽家連盟による弦楽5重奏の演奏「中央大学校歌」、ホルスト組曲「惑星」より「木星」、ドヴォルザーク「新世界より」第四楽章と続けました。

その後休憩を挟んで行われた、本日の目玉であるJAXA教授の津田雄一氏による「はやぶさ2の挑戦！宇宙探査の夢」というテーマの講演は内容も非常に充実し、多くの一般参加の方にも十分に満足いただけたものと思います。

そして会場を移して、お待ちかねの合同白門会・懇親会となりました。中央大学応援団チアリーディング部の力強い演舞の後、当番幹事の相模原白門会の村上博由会長の挨拶、そして中央大学からは久野修慈学員会会長、中島康予常務理事のユーモアと英智に満ちた挨拶の後、相模原白門会の佐々木勝洋名誉会長による乾杯のご発声で、懇親会は進んでいきました。

その中、サプライズゲストとして紅白出場のご経験もあるMAさんが登場し、歌やトークでさらに盛り上がりを見せ、その後各テーブルを回って写真撮影にも気楽に応じてくださっていました。



講演したJAXA津田教授（右）に笑顔でお礼を述べられる相模原白門会村上会長（左）

そして締めは、元ニッポン放送アナウンサー、オールナイトニッポンパーソナリティで、50年以上の歴史を誇る中央大学アナウンス研究会の創設メンバーの一人である勝山達志さんがサプライズ登場。中央大学の学生歌である「惜別の歌」の由来について勝山さんの語りを聞きながら全員で円陣、肩を組んで大合唱し、散会となりました。

（副会長 吉田弘明）

# 神奈川県内 10 番目の支部として 厚木白門会設立

2023年7月8日、神奈川県内10番目の支部として発足した厚木白門会支部設立総会が開催され、片岡会長とともに総会・式典に出席しました。

会設立に際して発起人代表挨拶、経緯説明の後、会則の承認、役員を選任が行われ、初代会長に元神奈川県教育委員会教育長の曾根秀敏氏が選任されました。

第二部の設立式典は、久野修慈学員会会長から曾根秀敏厚木白門会支部長への支部旗授与で幕を開けました。引き続き来賓として、中央大学学員会久野修慈会長、学校法人中央大学塚原由紀夫常任理事、神奈川県下白門会を代表して中央大学学員会副会長・横浜白門会小田原真人会長がお祝いの挨拶を述べました。

曾根会長から出席者へのお礼の挨拶、神奈川県下10番目の支部として活発に活動して行く決意が表明されました。

第三部懇親会は、土屋清副会長の開会挨拶に続き、学校法人中央大学理事・大和白門会会長でもある岡田孝子中央大学学員会副会長のご発声により、開会しました。

アトラクションとして津軽三味線の演奏と民謡ユニット「結-yui-」の小山貢理乃さんによる民謡が披露されました。また、サプライズで、地元厚木高校出身のバリトン歌手の森口賢二さんが重量感のある力強い声でオペラの一節を披露してくれました。

懇親会の締めとして全員で校歌、応援会を斉唱し、幹事の山口茂幸氏による素人とは思えないエールをもって、お開きになりました。

(副会長 遠藤主計)



設立に向け粛々と進められる総会風景



支部旗を掲げる久野学員会会長 (左)  
曾根厚木白門会会長 (右)  
(提供：タウンニュース厚木・愛川・清川編集室)



この度は誠にありがとうございます  
未永くよろしくお願い申し上げます

# 第25回SUC（湘南ユニバーシティクラブ）

## 親睦交流会・開催

令和5年10月14日（土）17時～19時30分、湘南クリスタルホテルで、第25回SUC（湘南ユニバーシティクラブ）が14校73名の参加で開催されました。

幹事校の関東学院大学燦葉会湘南支部・森雅明支部長の同窓を超えた友好の場であることを強調された挨拶で交流会がスタートしました。

講演会は、関東学院大学国際文化学部教授・君塚直隆氏を招きまして「エリザベス女王の70年—21世紀のイギリス王室」というテーマで講和されました。

内容は「幾多の試練を乗り越え、今日のイギリス王室の姿を築き上げ、笑顔で世界を魅了したエリザベス女王の素顔とお仕事—国家元首として。国民の首長として。英連邦王国の元首として。ダイアナ事件と広報活動の展開。王室広報の展開。コモンウェルス（旧英連邦）の首長として。またプレグジットに直面。在位70年96歳で崩御されるまで」を表現・解説されたものでした。

その後、鈴木恒夫藤沢市長の「藤沢には素晴らしい公園が沢山あります」という挨拶が続き、工学院大学校友会湘南支部・白井精滋支部長代行の乾杯で歓談の場へと移行しました。

歓談に入りますと、各校の出席者は名刺交換を、また昨年来の交流ということもあり、お互いに元気であったことを確認し合いながら笑いが絶えず、終始和やかな雰囲気にも包まれていました。

時間が過ぎて行く中で、今回の幹事校からバトンを渡されました次年度・第26回幹事校の明治大学校友会藤沢地域支部・寺谷恵一支部長が来年にける思いを込めた挨拶をされ、関東学院大学燦葉会湘南支部・穂山顧問の閉会の言葉で締められました。

また、来年、各校の皆様と元気な姿で会えることを期待しながら、会場を後にされました。

今回の幹事校であります関東学院大学燦葉会湘南支部様、このような楽しい雰囲気を設けて頂きましてありがとうございました。

このSUC（湘南ユニバーシティクラブ）親睦交流会が末永く続きますことを期待しながら、また来年を楽しみに待ちたいと思います。

（副会長 杉山 洋）



関東学院大学、君塚直隆氏による講演。女王陛下の足跡を丁寧に解説してくださいました



歓談も盛会の中幕を迎えました  
来年も無事お会い致しましょう

## || 若手会主催 第24回地引網大会 ||

令和5年10月28日(土)、若手会主催による第24回地引網大会が、堀川網で開催されました。ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止、又は規模を縮小しての開催を余儀なくされていましたが、今回は久しぶりに規模を通常時に戻して、開催することができました。



当日は天気にも恵まれ、総勢70名弱の方に参加して頂きました。午前10時半に開会し、まず西尾若手会会長の挨拶に始まり、次に片岡会長による乾杯の発声と続き、しばし歓談の時間へと移りました。



お待たせしました！**かんぱ〜い！！**



西尾若手会会長・大橋若手会副会長の挨拶も程々に…

午前 11 時半頃から、網上げが始まり、参加者全員で久しぶりの網の重さを実感しつつ、一生懸命、網上げを行いました。網には、大量のしらすやホウボウ等の魚が入っていました。特にしらすは、余るほどの大量で、参加者全員にお土産として持って帰って頂きました。



見よ！この地引日和！！

さあ今年は何だけの収穫に沸き返る事が出来るのでしょうか！？



新しく仲間になった  
石川さんも



片岡会長と実は左にも  
居る塚本さんも



西尾若手会会長も



川崎さん！目線はいらねえっす！（笑）



**よ～いしょ！よ～いしょ！！**

先輩も後輩も関係ないぞー！  
みんなで力の限り引っ張れー！  
今年の網も……

**重いぞ～！！！！**

最後には、全員で校歌と応援歌を歌い、坂口会員によるエールで閉会となりました。

このように盛況に行われた地引き網大会でしたが、コロナ前の参加者は、100人を超えていましたので、来年は是非、コロナ前と同程度の規模で実施したいと思っています。

(若手会副委員長 大橋賢也)



何が獲れたかな！？ わくわくが止まらない！



ポカーン…これで生しらす丼作ったら  
百人前軽く越えちゃうんじゃないの…



色とりどりの魚も大漁！  
参加された方にも沢山持ち帰ってもらい  
皆さん大満足のご様子でした

興奮冷めやらぬ会員はそのまま打ち上げへ！  
御自宅を会場として提供下さった川俣事務局長と  
今日上がりたてのしらすを早速釜揚げにしてい  
ただいた奥様のご厚意に感謝申し上げます



# || ホームカミングデー（駿河台） ||

## 駿河台キャンパスのイベントに参加

10月29日(日) ホームカミングデーが多摩キャンパスと駿河台キャンパスで開催されました。

当日は、茗荷谷キャンパスと小石川キャンパスの見学が出来ましたので茗荷谷キャンパスの大教室や5階の庭園を見学した後小石川キャンパスに徒歩で向かい、後楽園キャンパスの手前の道を右に曲がり小石川税務署の隣にある小石川キャンパスに到着し主にスポーツ施設を見学しました。

茗荷谷・小石川キャンパスを見学後、駿河台キャンパスの卒業後50年学员懇親会に参加しました。

19階のレストランで開催され約200名の方が参加され座ったテーブルの方は、新潟と千葉と横浜市の方でした。

最後に抽選会が開催され千葉の方と横浜の方が商品をゲットしました。

(副会長 吉原和義)



まずはテミス像の待つ茗荷谷へ



5階の庭園は新入生を迎えるべく  
綺麗に整備されていました



次は小石川キャンパスへ移動



小石川から次代のヒーローが  
多数輩出されることを願います



最後は駿河台で懇親会に出席



生憎の曇りでしたが眺望は見事でした  
また晴れの日を訪れたいものです

## || ホームカミングデー（多摩） ||

2023年10月29日（日）に多摩で開催されたホームカミングデーに、片岡会長、遠藤副会長、川俣事務局長、坂口理事で参加してきました。

コロナが第5類になったとはいえ、まだまだ学生の本分である勉学の妨げにならぬよう、今年はメインの会場をモノレールから降りてすぐの FOREST GATEWAY CHUO に据え、アルコール類は販売、持ち込み等一切無い状況での開催となりました。

式典では、音楽研究部・吹奏楽部による演奏会と応援団による演舞などの他に、WBC で日本を世界一に導く活躍を見せた横浜 DeNA ベイスターズの牧秀悟選手によるサプライズのビデオメッセージが流れるなど、工夫を凝らした演出がみられました。

また、昼食会場の「ヒルトップ」では、特別企画として多摩移転当時のメニューであった「和風とんかつ定食」が当日限定で復活したため、せっかくの機会であったことから当会参加者全員で食したところ、その味、ボリュームとも申し分なく、今後復刻版としてぜひともメニューに加えてみたらどうかとの思いを抱きました。

午後にはキャンパスの散策に出掛け、会場から最も遠い所では硬式野球グラウンドまで足を伸ばし、丁度行われていた他校との練習試合を観戦するといったような、普段の生活に戻りつつある多摩の光景を見ることが出来ました。そして会場に戻っては、模擬店を出店されている他支部の方々と久しぶりに旧交を温めました。

最後に福引抽選会が行われ、大和白門会の岡田会長は、今年度から新たに就任された学員会副会長及び中央大学理事としてくじを引かれていたのですが、無念にも藤沢白門会からは当選者は出ず、お楽しみは来年に持ち越されました。

まだまだ日常を取り戻す中途にあることを実感しながらも、例年と違った充実感のある一日となりました。

（副会長 遠藤主計）

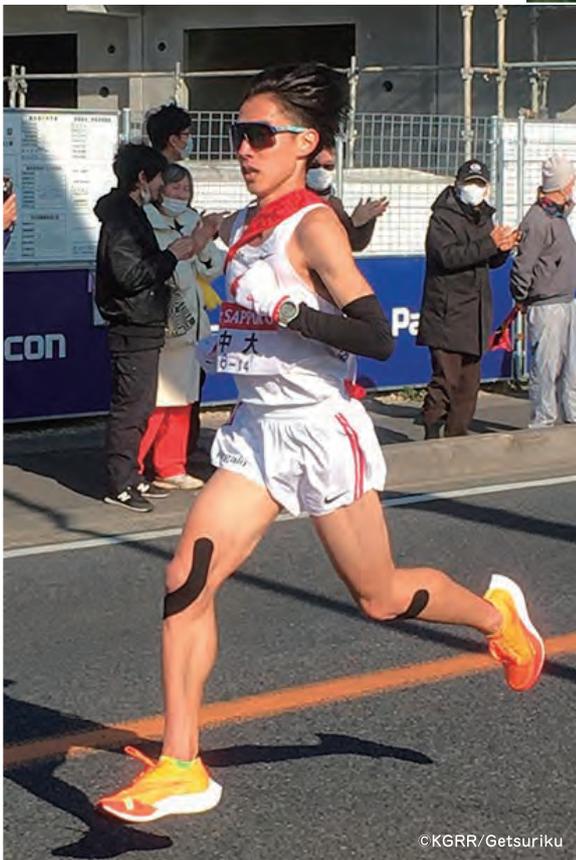


# 第 100 回箱根駅伝応援 中央大学無念の 13 位

前回準優勝、100 回記念大会での優勝を期待された中央大学は、年末に体調不良者が続出、実力を発揮できず 13 位に終わり、再び予選会に回ることとなりました。

1 月 1 日の能登半島地震で、一瞬開催できないのではとの不安がよぎりましたが、100 回大会は無事開催され、当会は、好成績を期待する中、今年も往復路で沿道応援（藤沢小前、浜見山交差点）を行いました。

1 月 2 日の往路では、藤沢小学校前の応援場所で大和白門会のメンバーも応援に加わり、大いに盛り上がりましたが、1 区の溜池、2 区の吉井兄とも、前回の力を発揮できず、3 区中野も 3 分以上離され、藤沢小前を通過、暗雲が立ち込めました。4 区湯浅は区間 3 位の好走でしたが 5 区山崎も振るわず、中大往路は 13 位となりました。



往路は岡田会長以下大和白門会の皆様からも  
幟旗を掲げて頂き（上写真右）3 区中野の  
走りを全力応援！！



ですが残念ながら結果は奮わず…復路の応援に向けて気合を入れ直し  
岡田会長、大和白門会の皆様、また次回御一緒出来る日を楽しみにしております

1月3日の復路は、6区浦田が区間5位、7区吉井弟は区間賞と盛り返し、一時総合10位まで上がりましたが、8区阿部、9区白川で順位を下げ、十区柴田が13位でゴール、残念な結果となりました。藤沢小前では、片岡会長ほか20数名で懸命に走る阿部を熱烈に応援しましたが、かなり疲れていて心配な状況でした。登録メンバー16名のうち、14名が不調。交代もままならず、藤原監督が棄権も考えたという中、予選会に回るようになったものの、10位まで1分16秒差という成績は、実力はあったことを裏付けるものであり、それだけに残念だったと思います。その中で好走をした1～3年生に期待しつつ、次回に期待しましょう。

引き続き、より一層の応援をしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

復路応援後、新年会を開催しました！

1月3日、復路を沿道応援した後から大手町のゴールまで、「花鳥風月」で新年会を開催、テレビ観戦で応援しました。

当日は、大和白門会から1名、父兄会から2名が加わり、27名で新年会を開催しました。会長の挨拶に続き、参加会員の紹介、他支部の方の挨拶などを行い、その後熱心に応援を繰り広げました。

多くの方から飲み物の差し入れをいただき、ありがとうございました。

また、新年会参加者をはじめ33名の方から、陸上部への寄付協力をいただきました。今回も箱根駅伝本番前に、地元高座豚のハム、ソーセージを差し入れましたので、報告させていただきます。

1月2日、当会といっしょに往路の応援をされた大和白門会の皆さんは、応援後「花鳥風月」新年会を開催し、当会からも片岡会長ほかの会員が合流しました。今後も、他支部との合同応援などで活動を広げられればと思います。

(箱根駅伝応援担当 本間徳也)



復路に賭けた応援も空しく、8区阿部選手は藤沢小前で既に集団に呑み込まれていました

結果は総合13位。本調子から遥かに遠い中、選手たちは健闘してくれました



新年会の席で母校の健闘と来年へのリベンジを祈願し高らかにエール。中大駅伝の挑戦はまだ続いて行きます！

# 第14回若手会主催ボウリング大会 & 懇親会開催

令和6年1月13日(土)、若手会主催によるボウリング大会&懇親会が、江の島ボウリングセンターで開催されました。今回は、新型コロナウイルスが5類に移行されてから初めての大会となり、日頃からボウリングに親しんでいる人や、久しぶりにボウルに触る人など、合計9名が参加し、盛況に行われました。

まず、9人が2チームに分かれ、午後2時半過ぎにゲームをスタートさせました。

ルールは、各自3ゲームを行い、そのうちスコアの高い2ゲームの点数を合計して順位を決めるというものです。ストライクを出したり、スペアを取ると、そこかしこから歓声が上がリ、ハイタッチが飛び交っていました。

和気あいあいとした雰囲気の中、あっという間に3ゲームが終了し、順位を気にしつつ、同センター内にある懇親会会場に皆で移動しました。



久しぶりの若手ボウリング大会を開催出来る喜びをともに、和気藹々の中、ゲームスタート！

「う～ん、彼は手首の捻りがイマイチだなあ～…」背後の大橋先輩から付度無しの厳しい評価が飛んできます(涙)



懇親会は、片岡会長の乾杯でスタートしました。皆さん、ボウリングで体力をだいぶ使ったため、料理も、飲み放題のアルコールも進み、舌もなめらかに歓談も盛り上がりました。

懇親会が開始して30分程度した頃、集計が終わり、皆が気になっていた順位の発表が行われました。3位片岡会長、2位川崎先輩、栄えある優勝は早乙女君でした。早乙女君は、優勝とハイスコア賞のダブルタイトルを獲得しました（ただし、歴代最低点での優勝であることはここだけの話にしておきます）。

順位に応じた賞品の他、全員に参加賞が渡され、皆が楽しい気分でボウリングセンターを後にしました。

なお、当日は、御年92歳の高島先輩が、ボウリング大会を観戦され（しかもずっと立ったままで!）、懇親会にもご参加くださいました。そのかくしゃくとした姿に、皆元気を頂きました。高島先輩、今後とも若手会主催の催しにご出席頂きますようお願い申し上げます。

来年も若手会員の親睦を広げるために、ボウリング大会を開催しますので、「ボウリングやったことない」とか、「玉が重くて指が痛くなりそう」などと尻込みしている方にも是非参加して頂きたいと思っています。

（若手会副会長 大橋賢也）



早くも来年は優勝カップを巡って熾烈な争奪戦が繰り広げられる予感…？



無事ボウリング大会を再開出来、感無量でした。そして高島先輩、お越し下さり有難うございました

## || 新入会員大歓迎しました ||

2023年7月15日（土）、藤沢駅南口プライムビル3階「宗平」（そうべえ）にて、新入会員歓迎会を開催しました。新型コロナが落ち着きをみせて、世の中少し明るくなったこともあり、またそれまでぜんぜん飲む機会がなかったので、コロナ以前に時折やっていた新入会員歓迎会の復活となりました。



片岡会長からのお話に聞き入る  
新入会員たち



右側手前から  
三和さん、手計さん、近藤さん、石川さん

今回の対象者は平成30年度から令和4年度の間に参加されたみなさんで、そのうち参加されたのは、昭和45年卒三和彦之さん、昭和63年卒石川敏男さん、平成12年卒手計太一さん、中大卒ではありませんが、ご令嬢が中大卒で在学中に父母会神奈川県支部の支部長をされていて、その経歴をもって学会からの推薦を受けて学会会員となった近藤芳生さんの4人の皆さんです。迎えたのは片岡会長ほかの役員7名で、美味しいお酒と料理を堪能し、学生時代の昔話や箱根駅伝など、中大の話題を中心に大いに盛り上がり、気が付けば3時間を超える大宴会となりました。店長のご配慮により、集合時間より早めに到着した人から飲み放題プランを「味見」と称して前倒しで始めさせてもらいました。また行かなきゃ。

最近卒業したばかりの超新人がかなりいるので、改めて令和6年度早々にそういった皆さんを集めてまた開催したいと思っています。

（事務局長 川俣 誠）



まだまだ飲みたんねーなあ、次行こう！

# 藤沢市への車椅子寄贈及び 能登半島地震の募金活動

平成12年から毎年藤沢市に対して車椅子の寄贈を続け、台数は通算で41台となりました。本事業は、当会の活動目的の一つとなっている地元藤沢市への社会貢献を実現するうえで、たいへん重要な事業となっています。

そもそものきっかけは、当会が平成12年12月に創立5周年を迎えるのを記念して、地元藤沢市の福祉向上に寄与する活動を始めようとの企画が持ち上がったことでした。何が良いかについて検討したところ、車椅子を寄贈しようとのアイデアが浮かびあがり、平成13年2月18日に開催された創立5周年記念式典において、それまで1年をかけて会員から募った募金を元手に購入した車椅子3台を、当時の橋本篤治会長から山本捷雄藤沢市長に寄贈したことが始まりです。

時は瞬く間に流れ、最初に寄贈してから25年が経過した令和6年2月23日（金・祝）には、当会が初めて開催した「第一回藤沢白門寄席」の開会式において、片岡久興会長から鈴木恒夫藤沢市長に対して車椅子2台の贈呈を行いました。鈴木市長からは長年に亘り寄贈を受けていることに対して、深い感謝の気持ちが述べられました。

この活動はまだまだ通過点にすぎません。今後も会員諸氏のご協力をいただき、できる限り継続していきたいと考えています。

「第一回藤沢白門寄席」では、車椅子の寄贈とともに、本年1月1日に発生した能登半島地震において、被災された皆さんの生活が一日も早く復旧、復興されることを願って、来場者の皆さんに募金を呼び掛ける活動を行いました。これも当会の社会福祉活動の一環として行ったもので、結果的に5万円を超える募金が集まったため、中央大学学会会を通じて現地に送金することとしました。ご来場の皆さんの心温まるご協力に深く感謝申し上げます。



(事務局長 川俣 誠)



## || 他支部・他校との交流 ||

### 慶応大学藤沢三田会主催・地引網大会・3年ぶりに参加

2023年9月24日9時30分 慶応大学藤沢三田会主催の地引網大会が開催されました。

参加者総勢198名。中央大学からは藤沢白門・会片岡会長、川俣事務局長、杉山副会長の3名が参加。また早稲田大学・藤沢稲門会からは庄司副会長様、石川幹事様2名が参加されました。

藤沢三田会・河相会長の元気な挨拶で始まり、パン食い競争、子供たち中心の宝探しゲーム、老若男女が参加した綱引き大会等の催しが行われました。綱引き大会は、参加者が2組に分かれて戦いましたが、1勝1敗の引き分けに終わりましたので、参加者の皆様は景品を手に、満足そうに各々の席に戻りました。

11時15分、いよいよ待望の地引網が始まり、ワッショイワッショイの掛け声に合わせて、大勢の方々の手により引き上げられました。

今回は、大漁とは行きませんでした。大量のシラス、数十匹のカンパチが陸揚げされました。

当日は、先週までの猛暑が嘘のような爽やかな天候に恵まれ、楽しい1日となりました。懐かしい仲間との談笑、旧交を温めておられた諸先輩方、学校間を超えた楽しい会話もあって終始和やかな雰囲気に包まれていました。

引き上げられました魚は、各参加者に配られ、家に持ち帰って頂きました。

また、来年、慶応大学藤沢三田会の皆様方とお会いできるのを楽しみにしております。ありがとうございました。

(副会長 杉山 洋)

### 茅ヶ崎支部主催のバーベキュー大会へ参加

2023年10月7日に茅ヶ崎白門会のBBQに参加して来ました。今回の会場は以前の梨農家ではなく、浜見平にあるBBQ専門店。会場への交通も茅ヶ崎駅から運行しているバスの停留所が至近距離ということもあり、気軽に会場へ到着することが出来ました。

藤沢白門会からは片岡会長、端山副会長、坂口理事が参加。乾杯の掛け声を契機に茅ヶ崎白門会の皆様や各支部・他校の方々と共に美味しいBBQに舌鼓を打つ中、晴天と残暑の中の心地よい風を感じ大いに飲み、食べ、話に花を咲かせていました。また大会の途中、藤沢白門会会員でもあり、茅ヶ崎白門会の事務局長でもある、上地流唐手道関東修武会・湘南修武館館長の藤本恵祐氏による少年空手教室の演舞などのアトラクションも披露され、元気な気合の声茅ヶ崎の空に響き渡っておりました。

大いに盛り上がる中、あっという間に楽しい時間は過ぎてしまい、最後に参加者が肩を組み、「惜別の歌」を歌い、散会となりました。

また来年の交流を楽しみにしております。お招き頂き誠に有難うございました。

なお後日、藤沢白門会主催の地引網大会において、茅ヶ崎白門会の刈間会長より差し入れを頂戴し、会員の若林様には大会にご参加いただけました。重ねて御礼申し上げます。

(副会長 端山幸雄)

※上記以外にも、多くの支部・他校との交流を深めております。皆様のご参加をお待ちしております。

---

---

# サークル同好会活動

---

---



水面に映える東寺五重塔  
(撮影：昭和 39 年法学部卒 大木樹雄)

## 《緑と歴史散歩サークル》

2023年度の緑と歴史散歩サークルは、2023年4月に開校した法学部の茗荷谷キャンパスと大学院のロースクール及びビジネススクール、学会本部が入る駿河台キャンパスを見学するキャンパスツアーを実施した。茗荷谷キャンパスは奇しくも施設整備前の2019年にキャンパスツアーを行った場所であり、新装なったキャンパスを改めて見学し、設備の整った環境で勉学に勤しむ後輩たちの様子を垣間見て羨ましさを感じながらも過ぎ去りしお茶の水時代を含めて学生時代の思い出を共有したひと時であった。

また、横浜白門会主催の箱根駅伝コースを歩く会に3回延べ11人が参加した。

### 「茗荷谷キャンパス」

2023年12月6日(水)の晴天に恵まれた日の午前10時、地下鉄丸の内線茗荷谷駅前に、藤沢白門会のメンバー12人が集合した。案内は、台東区元浅草で法律事務所を構え、弁護士として、また中央大学法曹会の事務局長としても活躍されている畑克海さんに務めていただいた。畑さんはコース案内を作るとともに大学との交渉やキャンパス内の説明などにわかりやすく精力的に対応された。

法学部の茗荷谷キャンパスの入口では、中大スポーツの学生記者が待ち受け新聞を提供してもらって新鮮な歓迎を受けた。学生には藤沢白門会の資料を渡し将来の会員となるよう勧誘したところでもある。

見学は、まず1階にある法と正義を司るギリシア神話のテミス像から始まり、エントランスの創立者たちの胸像、2階に合築されている文京区の出張所、3階の大教室、5階のラウンジや屋上庭園、B1の食堂やB2の法職研究室などを回った。キャンパスには最新の設備が導入され、女子学生が4割を占めているとのことであり、クラスに1～2名しか女子がいなかった私たちの時代とは隔世の感があり、ちょっと羨ましくも感じた。なお、駿河台キャンパスも同様であるが、キャンパス内の様子は大学のホームページから見るできるのでHPを閲覧すると更に詳しく知ることができます。



茗荷谷キャンパスにて中央大学の先駆となる英吉利法律学校を開いた創立者たちとテミス像



## 「駿河台キャンパス」

駿河台キャンパスには大学院のロースクール及びビジネススクール、学生会本部が入っている。

まず、1階のエントランス、2階のラウンジから4階の大教室を見て、5階の模擬法廷では裁判官、検察官、弁護人の椅子に座って実際の法廷を体験してみた。

12階の図書室では職員に案内いただき、幕末からの行政資料10万冊が収蔵されている書庫を見学し、院生や研究者にとっては垂涎的となる資料を見せていただいた。大学の学び舎としての機能は十分に発揮されていると感じた。

なお、18階には学生会本部が入っている。

キャンパス見学が終了し、いよいよ19階展望レストランでの昼食。眼下のニコライ堂やお茶の水の景観を堪能しながら、まずはビールでの乾杯。わが藤沢のメンバーには似つかわしくないお洒落なランチに舌鼓をうちしばし歓談。その後散会し、有志は鶯谷駅前の焼き鳥屋に寄って藤沢への帰路に着いた。



## 「箱根駅伝コースを歩く」

横浜白門会が企画し、県下7支部をリレーする箱根駅伝コースを歩く会に3回（6月17日戸塚～藤沢4人参加、7月22日藤沢～茅ヶ崎3人、11月4日小田原～箱根ゴール4人）、延べ11人参加した。箱根のゴール地点では往路テープを真っ先で駆け抜ける🏃の選手に思いを馳せたが、結果は残念なことになってしまった。来年に期待！

（緑と歴史散歩サークル幹事 澤田英樹）

## 《音楽鑑賞サークル》

未憎悪のコロナウイルスに翻弄され、早4年が経過しましたが、お変わりないでしょうか。

振り返れば、2019年8月に、ミューザ川崎シンフォニーホールでの「ヴェルディのレクイエム」、10月には神奈川県立音楽堂での「セレナード第10番変ロ長調」そして、12月には横浜みなとみらいホール・大ホールでの「P.I. チャイコフスキー交響曲第4番へ短調 Op.36」を鑑賞し、最大15名の参加がありました。

本年度は9/24の横浜市栄区民文化センター リリスホールでの「身体にいい音楽会」、12月には池袋からほど近い東京芸術劇場での「ブラームス交響曲第1番ハ短調 Op.68」でしたが、サークルメンバー18名の内、14名の皆様が、体調を気遣われ不参加となっているのが現状です。年齢構成も幹事の私が62歳で一番若く、今後の活動を継続することが、なかなか困難な状況となっております。つきましては、60歳以下の若い皆様の参加を、是非に募りたいと考えております。

また、クラシックを聞く機会がなかなかないと存じますが、特に小中学生のいらっしゃるご家庭には、一度でもいいので中世ヨーロッパで楽しまれた言葉のない音の調べを楽しんで頂ければと思います。

### 各団体の活動内容

#### 【中央大学管弦楽団】

中央大学管弦楽団は、中央大学唯一のオーケストラです。プロの指揮者や演奏家の方からの指導を受け、毎年5月・12月に定期演奏会を開催しています。7月には音楽研究会に所属する他部会とのジョイントコンサート、さらには楽器のセクション別での演奏会を積極的に開催し、3年を通して精力的に活動しています。

○2023年12月の中央大学管弦楽団の演奏会は、90回目という節目にふさわしい、ブラームスとチャイコフスキーのダブルシンフォニーという盛大なプログラムで構成。



2013.12.19 第90回記念定期演奏会会場 東京芸術劇場

【中大スイングクリスタル オーケストラ OB バンド】

Swing CrystalOB/OG 会メンバー相互の交流、OB/OG 会と現役部員の交流、そしてジャズを愛するすべての方々にスウィング・クリスタル・オーケストラとそのメンバーの過去、現在、未来の活動を紹介する場となっています。

今後の予定は、ありません。(インターネット情報で確認済み)

【NPO 法人癒しの医療を考える会】

「癒しの医療を求めて医療者と患者様が一体となり、病気を克服していくこと」の実現を目指して、湘南地域を中心に春と秋の年 2 回の医療講演と演奏が一体となったクラシックコンサートを開催しています。

○ 2024 年 3 月 10 日 (日) に鎌倉芸術劇場でコンサート開催予定です。曲目はドヴォルザーク交響曲第 6 番で演奏は湘南鎌倉フィルハーモニック管弦楽団です。

(音楽鑑賞サークル幹事 高橋 茂)



中央大学管弦楽団 第 90 回記念定期演奏会にて  
会場の荘厳な空気を感じながら、ブラームスとチャイコフスキーの調べに聴き入るひと時を楽しむ

## 《テニスサークル》

テニスサークルはコロナ禍明けで初めて10月16日(月)18時より藤沢市内の善行テニスコートを2時間借りてテニス練習会を開催致しました。以前と同様に前半を練習に、後半はダブルスゲームを行いました。

今回の参加は片岡会長、遠藤副会長を含めて計4人とダブルスが出来るギリギリの人数でしたが、組み合わせを変えながら試合を開催し、白熱したプレーで盛り上がりました。

次回開催の際には多くの皆様のご参加を期待しております。引き続きご興味のある方のご参加をお待ちしております。

(テニスサークル幹事 重田博章)



片岡会長の狙い澄ました返球！これを更に弾き返す猛者募ります！



コロナ禍以来、二度目になるナイター開催でした

次回は我こそスポーツマンという方のご参加をお待ちしております



## 《伝統芸能鑑賞サークル》

伝統芸能鑑賞サークルは白門出身の伝統芸能の演者（落語、講談、歌舞伎等）応援の為、今年は7月2日に林家つる子独演会をにぎわい座6名参加。7月21日藤沢市民会館のほろ酔い寄席には講談師の一龍齋貞奈さんを4名で応援に行きました。9月30日はさかなや落語会は林家つる子の独演会（藤沢）には9名が観覧しました。

来春真打昇進が決定しているのは林家つる子さんが上手くなったと、皆の感想でした。

（伝統芸能鑑賞サークル 深澤宗一）



ほろ酔い寄席で一龍齋貞奈さんと。小気味良い喋りで耳を楽しませてもらいました



さかなや落語会にて林家つる子さんを囲んで一枚。真打昇進おめでとうございます

## 《白門サロン会》

第61回白門サロン会は1月28日（日）に、令和2年2月24日（日）に行われた「藤沢 bistro ハンバーグ店」での催し以来、4年振りに10名が集まって「炭屋串兵衛藤沢店」にて開催されました。

コロナの影響で長い間開くことが出来ませんでした。いつも同様、美味しい料理を食べながら、ビールを始め多くのアルコールやソフトドリンクを飲みながら、楽しく語り合うことが出来ました。

（白門サロン会幹事 林 孝靖）



皆さんグラスの用意はよろしい  
ですか…それでは……

4年振りにまた元気で再会する  
ことが出来たことを祝して……



かんぱ〜い！！



美味しい料理も次々に運ばれ、久しぶりのサロン会とあって、話もお酒も一層弾み、気がつけば楽しい時間はあっという間に過ぎ去るのでした



ほろ酔いとなってお店の前ではい、チーズ。今年もまた良い店にお連れいただき有難うございました。

# 《ゴルフサークル》

## 第 35 回ゴルフコンペを開催

2023年9月25日(月)、秋晴れの、しかしまだまだ暑さが残るコンディションの中で、ゴルフ同好会第35回ゴルフコンペが開催されました。実に3年7か月ぶりとなる今回は、藤沢白門会メンバーに加えて、その歴史上初めてとなる茅ヶ崎白門会から刈間会長、藁品前会長のゲストお二人をお迎えし、11名によって賜杯を争うことになりました。

舞台は大厚木カントリークラブ桜コース。フェアウェーが広く、距離も短いため、とてもやさしく好スコアがでるコースで、お年寄りと女性にたいへん人気があるコースです。

気合十分なスタート前の雄姿、奮闘するラウンドでの一コマや優勝者を中心に何故か野菜を手に持つ参加者の面々など、フォトギャラリーをお楽しみください。



全員集合！気合十分！



左から川俣、藁品（茅ヶ崎白門会）刈間（同左）遠藤



左から西尾、梅澤、小林

茅ヶ崎白門会の薬品さんの  
カッコイイアドレス



梅澤さんの決まってるトップ



ナイスパット！入ったかな？



ちなみに野菜の種明かしをすると、自宅で自ら育てた多種多様な野菜を、コンペ賞品として段ボール箱にたくさん詰めて、当日運んでくれたのは、ゴルフ同好会幹事の小林智己さんでした。ゴルフを満喫したあとに、こんなにうれしいハプニングが待っているとは！参加者は持ちきれないほどの野菜を手にして大満足でゴルフ場を後にしました。小林さんありがとうございました。

競技は、新ペリア方式で、優勝は川俣誠（筆者）、2位は茅ヶ崎白門会薬品孝久さん、3位は市川優さん。スコアは次のとおりである。

|    |       |     |    |     |      |     |      |
|----|-------|-----|----|-----|------|-----|------|
| 優勝 | 川俣 誠  | グロス | 74 | ハンデ | 2.4  | ネット | 71.6 |
| 2位 | 薬品 孝久 | グロス | 97 | ハンデ | 24.0 | ネット | 73.0 |
| 3位 | 市川 優  | グロス | 95 | ハンデ | 20.4 | ネット | 74.6 |



優勝者を中心に笑顔と野菜でパチリ！

## 神奈川県合同白門会ゴルフ大会に参加

2023年10月24日（火）、相模湖カントリークラブにて神奈川県合同ゴルフコンペが開催されました。参加者は総勢30名、快晴のもと日頃の鍛錬の成果を発揮すべく、意気揚々とスタートしました。がしかし、相模湖カントリーは強烈なアップダウン、うねりたおすフェアウェー、冬が近づき薄くなった芝、超高速グリーンと思いのほか手ごわく、参加者全員が苦勞の連続となりました。

藤沢白門会からは、杉本和雅さん、小林智己さんと筆者である川俣が参加し、小田原白門会の中村会長と4人のパーティーでラウンドしました。筆者は幸いにも同伴メンバーと天候と運に恵まれ、優勝、ベストグロス賞、ニアピン賞2本を獲得することができ、たいへんラッキーな一日となりました。

次回は藤沢白門会が幹事として開催することになります。さて、どこのコースにしましょうかね。

（ゴルフサークル幹事 川俣 誠）



「秋晴れの青空をバックに記念撮影」

---

---

## 文芸・文化コーナー

---

---



絵手紙「南瓜」

(作者：昭和41年経済学部卒 石原昭憲)

## 大木の 小枝光りて 新芽立つ

若葉の季節が日々近づいてくる気配。春を待つ気持ちが高まってくる  
とき、自然界の営みは、着実にその態勢を整える。

まるで沈黙していたかのような大木にも、春へ向けた動きがあるようだ。  
やわらかくなった陽を受けながら、小枝が光って早くも春到来の動きを  
表明。

新芽をつけた小枝が広がりを見せる。小枝に着いた新芽の成長は、  
日ごとにそれぞれ顕著となって、春への世界を作ってくれるようだ。

春の風が大木にそっと吹いていく。小枝を揺らしているのは、春の  
態勢づくりを急いでいる様子。

(2012年4月)

## 樹々揺らす力ありけり 蝉しぐれ

真夏の暑さをいっそう高めるのは、蝉しぐれ。ここぞとばかりの反響  
である。

その響きは、周囲の動きも播き込んだ情景をつくっていく。途切れる  
ことのない蝉しぐれは、揺さぶるかのごとき力がある。

樹々に伝わっていく響きには、まさに〈いま生きる〉を表明している  
ようだ。

蝉しぐれは、今日もまた快調な響きをつないでいるが、その期間は  
長くない。

蝉しぐれの響きには、なにか哀愁めいたことを連想させるものがある。  
晴天の日、ひととき木陰で蝉しぐれに包まれることも、あっていい。

(2002年8月)

## 瞭たるや月光九月遠ざかり

月光は冴えて地上に注ぐ。

ことしの秋は早く来たようだ。

夜空に輝く星群は秋を彩る美しい情景。夏から秋へ、季節の歩調はたしかな移行へと繋がっていく。

澄み切った夜空に月の光が輝いているとき、ふと遠い日のことが思い出されることがある。一つの感慨。

季節の移りは、月の位置、雲の動きによっても気付かされるもの。

月が昇り、やがて夜空を制する光となって放つ威力は、大きいといえよう。人々に月光への魅力となって迫るのはその大きさに違いない。

九月も終わりに近い頃、月光は静かに遠ざかっていく。

(2020年9月)

NHK俳句コンクール入選・令和2年度

## 旋回の鳶遠山の雪解けず

晴れた日の連峰は、ひとつの威容となって迫ってくる。ときには、峰の向こうの見えない景色まで想像を膨らませることがある。

春近い季節を迎えて、上空も明るさを増してきたようだ。

春よ来い、の気分が高まってくる時期。

悠々と上空を旋回しているのは大きな鳶。ゆったりと飛んでいる動きは、ちょっと気にかかる。ダイナミックな旋回ぶりは鳶のもつ特性なのかもしれない。

旋回の背景に浮かぶ山の頂には、残雪が見える。ここには、春はまだ早い様子だ。

旋回する鳶は、もう春の兆しをつかんだにちがいない。

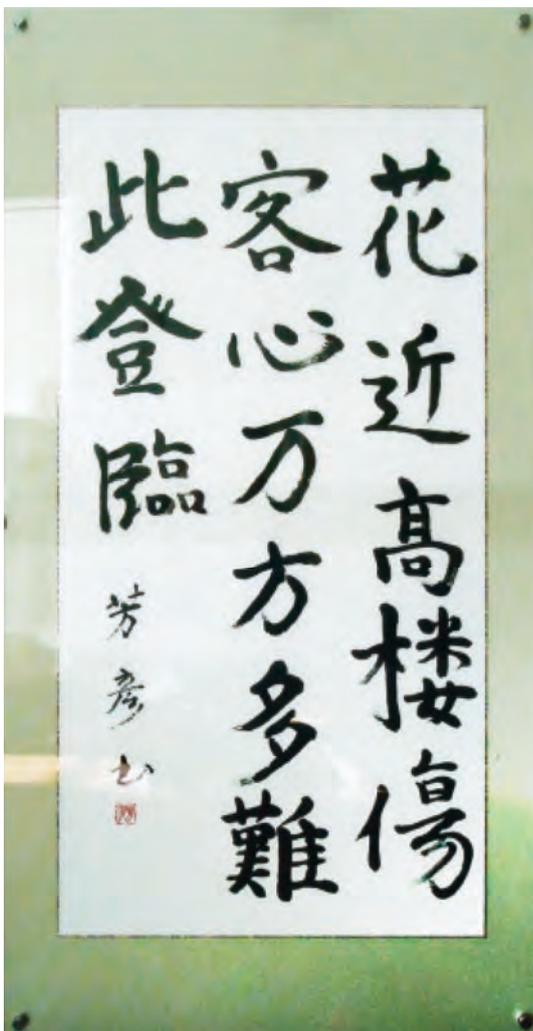
(2013年3月)

# 美術（色鉛筆画・書道）

昭和 44 年経済学部卒 城崎芳彦

\*色鉛筆画：北杜市（山梨県）

鳳凰三山を背景に水車小屋を描いております。



\*杜甫の詩「登楼」（楼に登る）

|        |           |
|--------|-----------|
| 花近高楼傷  | 花は高楼に近くして |
| 客心万方多難 | 客心を傷ましむ   |
| 此登臨    | 此に登臨す     |

現代語訳

花は高楼（高殿）の近くに咲き、旅の心をかき乱す。  
ここかしこもいずれも多難である中、私はこの地で  
高楼に登り、四方に思いを馳せている。

杜甫 53 歳の詩であり、中国史上では 764 年（広徳元年）  
王朝は唐の時代でした。

世界史でも有名な「安史の乱」が前の年の 763 年、  
約 7 年余の内乱を経てようやく鎮圧されましたが、その  
混乱の中、都である長安が異民族の侵入を許すという  
事態が引き起こされています。

その報せを成都（四川省）で聞いた杜甫の愛国心が  
現れた一節と言えるでしょう。

# 「AI」始めてみました

平成7年文学部卒 坂口秀之

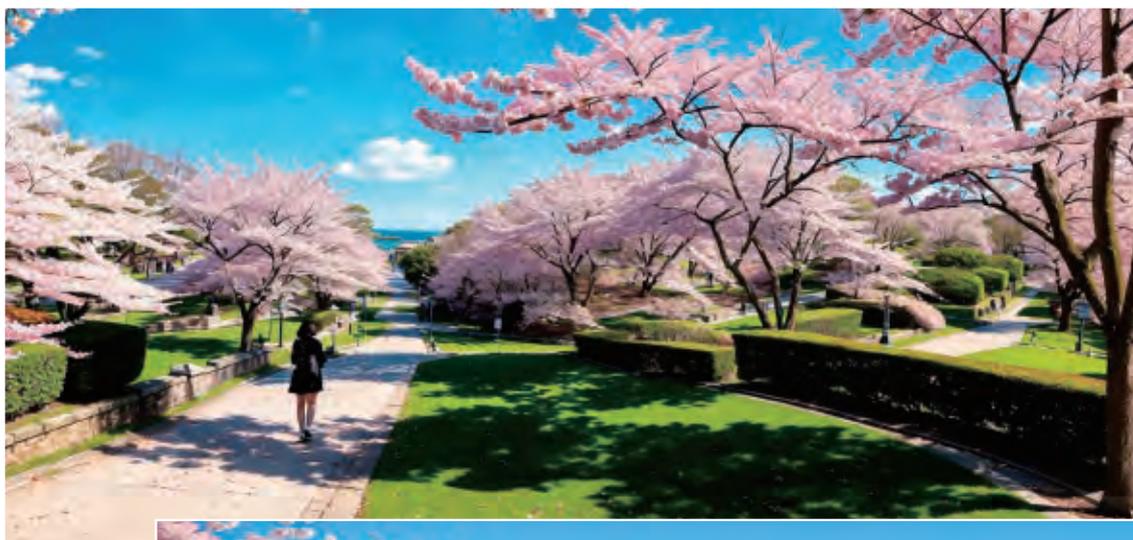
2023年、それまで先端にいる技術者が研究を重ねているというイメージの強かった「AI (Artificial Intelligence)」人工知能。それが最近では目覚ましい発展を遂げて、皆さんにもしばしば話題として耳に入るような距離に近づいて来たように思えます。

ChatGPTを始めとした対話型AIや、身近なところだとニュース番組の音声合成AIによる読み上げなど、今後人々の生活により関わって来るであろうことは想像に難くありません。

さて、そのAIの中でも、文芸・文化のコーナーに相応しいテーマかどうかは私自身も少し首をかしげる所があるのですが、「描画AI」というものを最近触っておりますので、色々ご紹介してみようと、会報のスペースをいただきました。

まず世の中での描画AI、やはり良いことよりは悪いことに話題が集中してしまうのは、新しい物に触れた際の人間の性なのでしょう。2022年の8月にはデジタル絵画のコンクールで描画AIが生成した画像が優勝を獲得し、物議を醸した報道が大きく取り上げられました…閑話休題。

とりあえず下に画像を挙げますのでご覧ください。



実は私、毎年多摩キャンパスの桜を写真に収めて、会報の余白部分に使わせてもらっていますが、その一部です。…というのは**真っ赤な嘘**で、これら二枚の絵は描画AIによるものです。

描画 AI の凄い所は、これらの画像を「元になる下書き」「落書き」果ては「テキストのみ」から描き起こせることも出来るという点でして、例えば先程の二枚は…

(landscape, highres, photo realistic, RAW photo, top of hill, university campus, spring, fine day, cherry blossoms, lot of petals, wide shot)

…といったテキストから描き起こされています。今にして学生時代あまり英語を熱心に修めようとしなかったのが悔やまれます（苦笑）。

ですが AI の作った画像にも弱点は有りまして、それを露呈している好例になるのが下の二枚。



左の画像は左右で季節が違いますし、右の画像ではよく右上を見ると…雲の中にお城が！？と、こんな『間違い探しクイズ！初級編！！』のような現実と矛盾した画像がしばしば作り出されます。

ですが、物によっては緻密で精巧に描かれた AI 画像も世の中には沢山出回っておりますので、見る目も養わないと案外簡単に騙されてしまう危険もあり、現在進行系で AI 画像の取り扱いについてはさまざまな議論が交わされているのが現状です。ともあれ、まだまだこれから発展していく AI 技術という名の「文化」。しばらく注目してみるのも面白いかも知れません。



---

---

## 母校の近況・組織図

---

---



平安神宮の枝垂桜  
(撮影：昭和 39 年法学部卒 大木樹雄)

## ◆◆◆◆ 母校の近況 ◆◆◆◆

### 「都心キャンパスと多摩キャンパスの新時代」

2023年4月より茗荷谷キャンパス、駿河台キャンパス、小石川キャンパス開設に伴い、都心回帰の一年目がスタートしました。



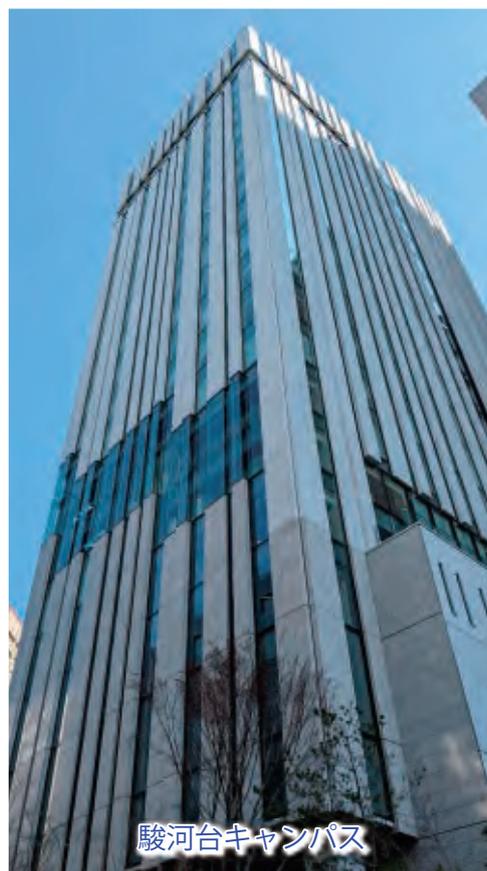
茗荷谷キャンパス

茗荷谷キャンパスは、近くにお茶の水女子大学、跡見学園女子大学、筑波大学附属中学校・高等学校、教育の森公園などがあり、文教地区として知られ勉学に勤しむには恵まれた環境を有しています。

エントランスには中央大学を象徴する「白門」をイメージしたアーチがあしらわれ、入口をくぐると開放的な吹き抜けが広がります。法学という学問を象徴する構造と言えるでしょう。

駿河台キャンパスは、ロースクール（法科大学院）とビジネススクール、2つの専門職大学院で法律のわかる経営者、経営のわかる法律家の育成を目指します。

地上20階地下1階、延床面積1万5千㎡の広さを誇り、2階にラウンジと19階にはカフェテリアが設置されています。このカフェテリアは、御茶ノ水の景色が一望でき、学生・卒業生・教職員交流の場となります。



駿河台キャンパス



小石川キャンパス

小石川キャンパスは、体育館と付属棟で構成されており、各球技の平面コートが配置され、衝突に耐える安全性と屋根面の下に吸音材を設置した防音性を兼ね備えた設計となっています。

法学部、理工学部、国際情報学部の体育施設として、また体育会系サークルによる学生交流の利用を主に、教育研究の一層の充実を図ることを目的としています。

また、この3つのキャンパス以外にも、2019年に設置された市ヶ谷田町キャンパスでは、1学年150名の少数精鋭で「情報の仕組み」と「情報の法学」の融合を学ぶ国際情報学部が設置されています。

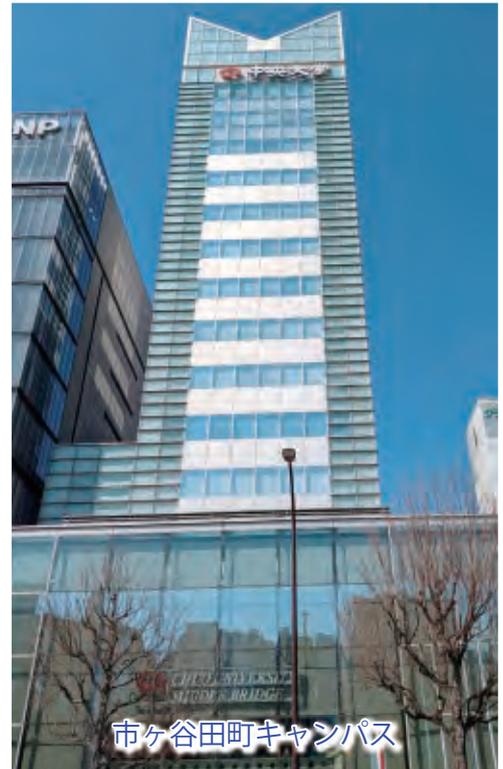
更には既に1949年に工学部として誕生した後楽園キャンパスは、東京ドームを見下ろすことが出来るアクセス抜群の好立地として都心の重要拠点をおさえ、理工学部の学生が科学技術分野の最先端で研究を行っています。

翻って多摩キャンパスは、約51万8千㎡の緑豊かな自然に恵まれた広大な敷地に学部棟、研究棟、サークル棟、図書館、ヒルトップ（食堂）、屋外・屋内スポーツ施設など充実した施設がそろっています。

キャンパスには、都心ではなかなかお目にかかれない四季折々の花が咲き乱れており、特に春の桜は名所としてしばしば採り上げられています。また、中央図書館前の池には、錦鯉が泳いでいる自然豊かで風光明媚なキャンパスです。

これから先々の都心回帰と言うよりも「都心発展」の益々の進化を推し進め、都心と多摩との両輪で母校の名声が高まる事を期待し見守って行きたいと思えます。

(副会長 吉原和義)



市ヶ谷田町キャンパス

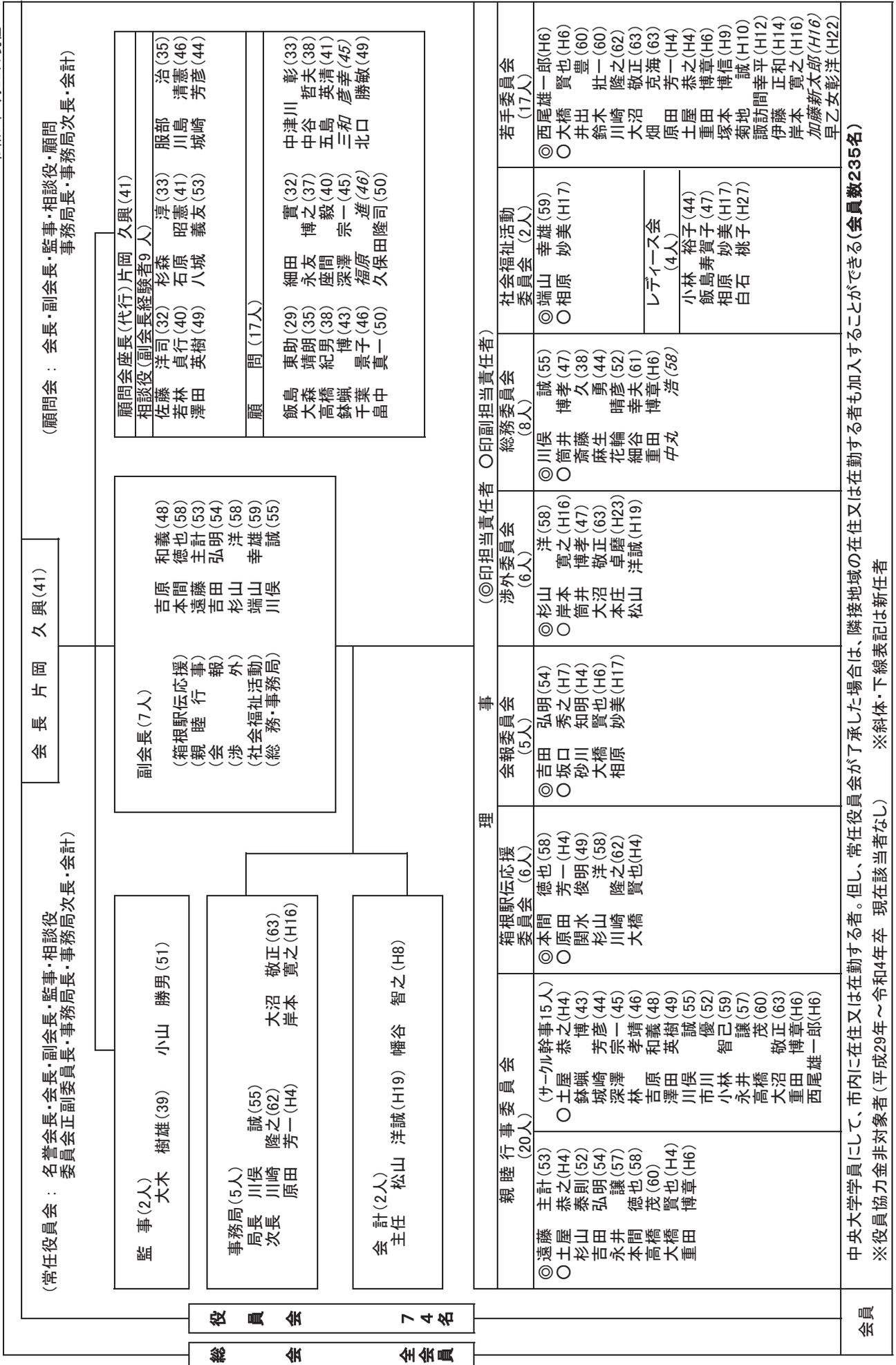


## ACCESS



# 中央大学学員会藤沢白門会組織図

令和5年4月22日現在



□新入会員（入会日順）～よろしくお願ひいたします□

令和4年

3月 近藤 夢乃 様 令和4年 総合政策学部卒

令和5年

12月 山川 裕之 様 令和4年 経済学部卒

12月 藤田 寛之 様 令和5年 国際経営学部卒

12月 田島 由貴 様 令和5年 理工学部卒



京都からほどない旅程で辿り着ける嵐山のトロッコ保津峡駅にて、信楽焼の狸がお出迎え  
(撮影：昭和39年法学部卒 大木樹雄)



## 物故会員 謹んで哀悼の意を表します

### 令和2年

|       |     |         |       |       |
|-------|-----|---------|-------|-------|
| 4月24日 | ご逝去 | 増田 隅雄 様 | 昭和34年 | 法学部卒  |
| 5月    | ご逝去 | 芳賀 剛正 様 | 昭和39年 | 経済学部卒 |
| 9月15日 | ご逝去 | 番場 定孝 様 | 昭和38年 | 法学部卒  |
| 9月23日 | ご逝去 | 内田 和男 様 | 昭和30年 | 商学部卒  |
| 10月9日 | ご逝去 | 諏訪間幸男 様 | 昭和39年 | 法学部卒  |
| 12月5日 | ご逝去 | 小川 晃 様  | 昭和33年 | 商学部卒  |

### 令和3年

|       |     |         |       |       |
|-------|-----|---------|-------|-------|
| 2月10日 | ご逝去 | 安藤 亀鶴 様 | 昭和37年 | 商学部卒  |
| 6月    | ご逝去 | 瀧野 秀雄 様 | 昭和27年 | 法学部卒  |
| 8月    | ご逝去 | 古寺 康則 様 | 昭和44年 | 経済学部卒 |
| 9月11日 | ご逝去 | 碓井 哲雄 様 | 昭和40年 | 経済学部卒 |
| 9月11日 | ご逝去 | 室原 達也 様 | 昭和39年 | 理工学部卒 |

### 令和4年

|    |     |         |       |       |
|----|-----|---------|-------|-------|
| 2月 | ご逝去 | 豊田 松夫 様 | 昭和32年 | 法学部卒  |
| 5月 | ご逝去 | 村山 俊博 様 | 昭和30年 | 経済学部卒 |

### 令和5年

|     |     |         |       |       |
|-----|-----|---------|-------|-------|
| 2月  | ご逝去 | 富田 和子 様 | 昭和42年 | 文学部卒  |
| 3月  | ご逝去 | 杉山 和彦 様 | 昭和34年 | 法学部卒  |
| 4月  | ご逝去 | 時枝 誠 様  | 昭和39年 | 文学部卒  |
| 10月 | ご逝去 | 杉森 淳 様  | 昭和33年 | 経済学部卒 |

# 藤沢白門会讃歌（新曲）

中央大学学生会藤沢支部

作詞：服部 治

作曲：藤沢 健児

1 いま湘南に ひかり溢れて  
前へ 集い会う  
心豊かに 人生の季節を映し  
意気を新たに 肩寄せて  
讃えよう 中央 讃えよう 中央 中央  
われら 藤沢白門会 ここに在り

2 この街に愛 響かせて広く  
前へ 目を開き  
心静かに ふるさとの山川思う  
時は流れて 歳月を  
讃えよう 中央 讃えよう 中央 中央  
われら 藤沢白門会 ここに見る

3 あの松風も さわやかに吹く  
前へ 友と手を  
心昂めて 潮騒を遠くに聴けば  
若き日近く 想い来る  
讃えよう 中央 讃えよう 中央 中央  
われら 藤沢白門会 ここに立つ

# 藤沢白門会讃歌

(いま湘南に)

作詞：服部 治

作曲：藤沢 健児

行進曲風に

(1) い ま

♩ - 80

しょう ー なん に ひか り あ ふ ー れ て ま え  
 まち に あ い ひび か せ ひ ー ろ く ま え  
 ま つ か ぜ も さ わ や か に ー ふ く ま え

へ つ ど い あ う こ ー こ ろ ゆ た か に  
 へ め を ひ ら き こ ー こ ろ し ず か に  
 へ と も と 手 を こ ー こ ろ た か め て

じん せ い の き せ つ を う つ し い き を あ ら た に か た よ せ て た た  
 ふ る さ と の や ま か わ お も う と き は な が れ て と し つ き を た た  
 し お さ い を と お く に き け ば わ か き 日 ち か く お も い 来 る た た

え よ う 中 一 央 た た え よ う 中 一 央 中 央 わ れ  
 え よ う 中 一 央 た た え よ う 中 一 央 中 央 わ れ  
 え よ う 中 一 央 た た え よ う 中 一 央 中 央 わ れ

ら ふ じ さ わ は く も ん かい こ 一 こ 一 に あ り (1)・(2) (2) こ の  
 ら ふ じ さ わ は く も ん かい こ 一 こ 一 に み る (3) あ の  
 ら ふ じ さ わ は く も ん かい こ 一 こ 一 に 立

(3) *Fine*

*rit*

# 中央大学校歌

石川道雄 作詞  
坂本良陸 作曲

一、草のみどりに風薫る  
丘に目映き白門を

慕い集える若人が  
真理の道にはげみつゝ、  
栄ある歴史を承け伝う  
ああ中央 我等が中央  
中央の名よ光あれ

二、よしや嵐は荒ぶとも  
揺がぬ意気ぞいや昂く

春の驕奢の花ならで  
みのりの秋やめざすらむ  
学びの園こそ豊かなれ  
ああ中央 我等が中央  
中央の名よ誉あれ

三、いざ起て友よ時は今  
新しき世のあさほらけ

胸に血潮の高鳴りや  
湧く歌声も晴れやかに  
自由の天地ぞ展けゆく  
ああ中央 我等が中央  
中央の名よ学あれ

藤沢市の花



フジ

藤沢市の木



アボマク

# 中央大学応援歌

中央大学学生自治会  
古閑祐而 作曲

一、憧れ高く空ひろく  
理想の光あやなせる

あ、中央の若き日に  
伝統誇る白門の  
闘い挑むはた仰げ  
力、力、中央、中央

二、情熱と力の若人が  
精鋭こそりふるいたつ

あ、中央の若き日に  
雄叫ぶ血汐 紅は  
闘魂たぎる火と燃える  
力、力、中央、中央

三、我等が誇り覇者の歌  
さんたり栄光我が生命

あ、中央の若き日に  
今ぞ座らん覇者の座に  
いざ勝どきを揚げんかな  
力、力、中央、中央

# 惜別の歌

作詞 高崎盛村  
作曲 藤江英輔

一、遠き別れに耐えかけて  
この高懸にのぼるかな

悲しむなわれわが友よ  
旅の衣を整えよ

二、別れとといえは昔より  
この人の世の常なるを

流るる水を眺むれば  
夢はずかしき涙かな

三、君さやけき目の色も  
君くれないの唇も

君がみどりの黒髪も  
またいつか見んこの別れ

藤沢市の鳥



カワセミ

# お 願 い

## 1 会費納入のお願い

会員各位におかれましては、日頃白門会活動にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

藤沢白門会は会員相互の親睦を深めるため、会員の皆様の積極的なご参加のもと、各種行事・催事を数多く開催いたしておりますが、この藤沢白門会の運営は、会員の皆様にご負担いただいております貴重な会費収入により支えられおり、今後も活動を継続していく上で、安定した会費収入は不可欠なものでございます。

ご失念のため未納付と思われる会員におかれましては、会員各位の会費により藤沢白門会の運営がなされていることをご理解のうえ、早急に納付していただきたくお願い申し上げます。なお、納付方法等につきましては、会計担当にご確認いただきたいと存じます。重ねてお願い申し上げます。

## 2 白門飛躍募金のお願い

会員各位におかれましては、既に学員時報等でご承知と存じますが、中央大学の中長期事業計画実現に向けて、『白門飛躍募金』のご案内がお手元に届けられていると思います。

藤沢白門会としましても、中央大学のさらなる発展に寄与すべく、会員各位に募金趣意書の趣旨をご理解いただき、寄付金のご協力を賜りたく、重ねてお願い申し上げます。

## 編集後記

ようやくコロナ禍から解放されたようです。藤沢白門会の活動も以前に戻りつつあります。今年度は、地引き綱やボーリング大会という藤沢白門会の独自行事もできました。結果はとにかく、会員みんなで箱根駅伝大会も応援できました。サークル活動も徐々に始まってきました。また、会報発行の直前に今年度の目玉であるイベント「藤沢白門寄席」を成功の内に終わらせることが出来、特報として皆様にご紹介できたことは大きな喜びでした。

それにも増して何よりも嬉しいことは、以前のような冊子の会報を作り、会員のみなさまにお届けできることです。やはりタブロイド判とは違います。随想も久しぶりに掲載しました。執筆者の気持ちが伝わる内容の濃いものです。

本誌の発行にあたり、原稿を投稿して頂いた会員のみなさま方をはじめ、多大なご協力を頂きました多くの方々に対して、心より御礼申し上げます。

(ヨッシー)



多摩キャンパス FOREST GATEWAY CHUO に映えるイルミネーション

(撮影：昭和 48 年経済学部卒 吉原和義)



発行・中央大学学会「藤沢白門会」

〒251-0032 藤沢市片瀬4-4-15

会長 片岡久興

(電話・FAX 0466-26-8402)



Web・<https://www.fujisawa-hakumonkai.jp>

編集・「藤沢白門会」会報委員会

発行日・令和6年3月1日

印刷・株式会社プリントパック

表紙：第1回 藤沢白門寄席にて（令和6年2月23日）

